【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第３区分
【発行日】平成23年8月18日(2011.8.18)

【公開番号】特開2010-249360(P2010-249360A)
【公開日】平成22年11月4日(2010.11.4)
【年通号数】公開・登録公報2010-044
【出願番号】特願2009-97261(P2009-97261)
【国際特許分類】
Ｆ２４Ｆ　13/15　(2006.01)
Ｆ２４Ｆ　13/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ２４Ｆ　13/15　Ａ
Ｆ２４Ｆ　1/00　４０１Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成23年7月4日(2011.7.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
送風手段および熱交換手段が収納され、前面の下面寄りの範囲および下面の前面寄りの範囲に吹出口が形成された本体と、
前記吹出口の前記本体の前面側に回転自在に配置された第１上下風向板と、
前記吹出口の前記本体の後面側に回転自在に配置された第２上下風向板と、
前記第１上下風向板の回転軸に設置され、径大部および径小部を具備する第１制動部材と、
前記第２上下風向板の回転軸に設置され、径大部および径小部を具備する第２制動部材と、
前記本体に揺動自在に設置され、一方の先端が前記第１制動部材の径大部に当接した際、他方の先端が前記第２制動部材の径大部から外れ、且つ、他方の先端が前記第２制動部材の径大部に当接した際、一方の先端が前記第１制動部材の径大部から離脱するシーソー部材と、を有し、
前記第１上下風向板が略鉛直の姿勢で、前記第２上下風向板が略水平の姿勢のとき、前記シーソー部材の他方の先端が前記第２制動部材の径大部に当接して、前記第１上下風向板の前記本体の後面方向の回転が拘束され、且つ、前記第１上下風向板が略鉛直の姿勢で、前記第２上下風向板が略鉛直の姿勢のとき、前記シーソー部材の一方の先端が前記第１制動部材の径大部に当接して、前記第１上下風向板は前記本体の後面方向に回転することができることを特徴とする空気調和機の室内機。
【請求項２】
送風手段および熱交換手段が収納され、前面の下面寄りの範囲および下面の前面寄りの範囲に吹出口が形成された本体と、
前記吹出口の前記本体の前面側に回転自在に配置された第１上下風向板と、
前記吹出口の前記本体の後面側に回転自在に配置された第２上下風向板と、
前記第１上下風向板の回転軸に設置され、円弧状凹部を具備する第１制動部材と、
前記第２上下風向板の回転軸に設置された第２駆動部材と、
前記本体に揺動自在に設置され、前記本体の下面方向に回転した際、前記第１制動部材

の円弧状凹部に当接し、且つ、前記本体の上面方向に回転した際、前記第１制動部材の円弧状凹部から離脱する扇状部を具備する第２制動部材と、
　前記第２駆動部材と前記第２制動部材とを連結する連結部材と、
を有し、
　前記第１上下風向板が略鉛直の姿勢で、前記第２上下風向板が前記本体の下面方向に回転した姿勢の際、前記連結部材は、前記第１制動部材の円弧状凹部に前記第２制動部材の扇状部を当接させ、且つ、前記第１上下風向板が略鉛直の姿勢で、前記第２上下風向板が前記本体の上面方向に回転した姿勢の際、前記連結部材は、前記第１制動部材の円弧状凹部から前記第２制動部材の扇状部を離脱させることを特徴とする空気調和機の室内機。
【請求項３】
　前記第１制動部材を回転する第１ステッピングモータと、
　前記第２制動部材を回転する第２ステッピングモータと、
　前記第１ステッピングモータおよび前記第２ステッピングモータの回転を制御する制御部と、を有し、
　該制御部が、前記第１上下風向板が略鉛直の姿勢で、前記第２上下風向板が略水平の姿勢のとき、前記第２ステッピングモータを回転して前記第２上下風向板を略鉛直の姿勢にすると同時に、前記第２制動部材の径大部が前記シーソー部材の他方の先端に当接しない位相にした後、前記第１ステッピングモータを回転して前記第１上下風向板を略水平の姿勢にし、
　前記第１上下風向板が略水平の姿勢で、前記第２上下風向板が略鉛直の姿勢のとき、前記第１ステッピングモータを回転して前記第１上下風向板を略鉛直の姿勢にすると同時に、前記第１制動部材の径大部が前記シーソー部材の一方の先端に当接しない位相にした後、前記第２ステッピングモータを回転して前記第２上下風向板を略水平の姿勢にすることを特徴とする請求項１または２記載の空気調和機の室内機。